



優秀賞

京都府遊技業協同組合
「『視覚障害者オープンゴルフ京都大会』への
支援」事業



京都府遊技業協同組合 青年部 会長
坂本真吾さん

視覚障害者のゴルフ大会を継続的に支え、 ボランティア精神を組織の文化に

スポーツを通じた感動は万人に共通

プレーするにしろ、それを見て楽しむにしろ、スポーツには人を感動させる力がある。社会貢献や地域貢献の一環として、青少年を中心とした各種スポーツの振興や支援に尽力しているのも、スポーツの持つ力と魅力に期待しているからに違いない。

そして忘れてならないのは、スポーツを通じた感動は、障害を持つ人であれ、健常者であれ、決して変わりはないということである。先のバンクーバーではパラリンピックも開かれたが、そこで繰り広げられた各競技の面白さ、選手たちの技術と熱意、また選手たちをサポートするボランティアなどの活躍を見て、その思いを新たにした。スポーツにおいても、“ノーマライゼーション”の実現は、ぜひ達成しなければならない。

2009年で12回目となった「視覚障害者オープンゴルフ京都大会」は、スポーツとノーマライゼーションの関係という観点からも、もっと注目されていい大会だろう。

この大会は視覚障害者ゴルフの普及と技術の向上はもとより、障害を持つ方々とこれを支えるボランティアや地域の人々との交流を深めることを目的に開催されているもので、昨年は京都ゴルフ倶楽部上賀茂コースに、全国から23名の選手、約100名の役員・スタッフなどが参加して開催された。

大会は、各選手それぞれサポーターとマーカートの2人を伴い、18ホールのレストランプレーで競う。サポーターとは介添え人的な役割を果たす人で、選手の誘導、ボールの位置やコースの形状など、詳しく選手に伝え、プレーの手伝いをする。一方、マーカートは打数を記録するが、大会では各ホールのパーの3倍までストロークができ、それ以上は3倍に2打プラスしたものがスコアとなるため、記録係は大切な役割を果たす。

参加資格は、ハーフ(9ホール)を2時間半前後でプレーできる選手となっており、視覚障害の程度に応じてB1～B3の3つのクラスに分かれる。B1クラス、および



「第12回視覚障害者オープンゴルフ京都大会」の様子



プレイヤーはサポーターとマーカートを伴ってプレーする



大会プログラム



長年の活動が評価され開会式で感謝状を授与された

B2・B3クラスでそれぞれ優勝から3位までが表彰されるほか、ベストグロスで総合優勝が決まる方式になっている。また、同一グロスの場合は、年齢が高いほうが上位となる。

第1回からボランティアとして継続参加

京都府遊技業協同組合青年部会では、部会員がこのマーカートに第1回大会からボランティアとして参加している。大会の主催者である京都視覚障害ゴルフフェーズ協会では、この大会を毎年続けることができる要因のひとつとして、選手のプレーや大会運営のサポートをしてくれるボランティア団体の力が最も大きいことを挙げ、各方面への呼びかけを行っている。こうした要望に応え、第1回大会から現在までボランティアとして継続して参加しているのは、京遊協青年部会の部会員だけであり、

その意味でも、主催団体や大会関係者、選手から、大会に欠かせない存在として信頼されている。昨年9月「第12回視覚障害者オープンゴルフ京都大会」では京遊協青年部会から4名がボランティアとして参加したほか、大会支援として京遊協が60万円の資金援助を行った。

「継続は力なり」というが、それは継続することの難しさをみんなが理解しているからともいえる。しかも、物事は継続されていくことで“文化”ともなる。さまざまなところでボランティア精神が文化として継承されていけば、ノーマライゼーションの達成に大きく貢献するのではないだろうか。その意味で、京遊協青年部会がこのゴルフ大会でボランティアを続けていることは、組織としての貴重な文化といえるだろう。今後も、大会への継続的な参加を通じ、京遊協の先輩から後輩へとボランティア精神が受け継がれていくものと思われる。